

外国史 I

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考 日文・英米以外

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

現在の歴史教育では、諸地域間の交流を通じた歴史理解が求められており、社会科教員は国家の枠組みを超えた「世界史的な視点」で歴史を理解し、伝達する能力が必要となっている。そこで本講義では、19世紀のアジア地域をめぐる国際関係史を取り扱い、一国史的な枠組みを越えた広範な視点に基づく時代の理解、教員になるために不可欠な歴史知識の習得、「覚える歴史」とは異なる「考える歴史」という思考様式の育成を目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？
2	東アジア国際秩序の変容①：華夷秩序と朝貢体制とは何か？
3	東アジア国際秩序の変容②：19世紀前半の英中関係の特徴とは何か？
4	東アジア国際秩序の変容③：「南京条約体制」とは、どんな体制か？
5	東アジア国際秩序の変容④：2度のアヘン戦争で、何が、どのように変わったのか？
6	英米の日本進出①：アメリカ合衆国の日本進出のねらいは何か？
7	英米の日本進出②：19世紀中葉における英米の対日政策の特徴とは何か？
8	英米の日本進出③：イギリスの対日政策はどのように変化したのか？
9	諸列強のアジア進出①：1850年代のヨーロッパ国際関係の特徴は何か？
10	諸列強のアジア進出②：1870年代のヨーロッパ国際関係の特徴は何か？
11	諸列強のアジア進出③：諸列強による中央アジア進出はどのような経緯だったのか？
12	諸列強のアジア進出④：諸列強の東北アジア・東南アジア進出はどのような経緯だったのか？
13	朝鮮半島をめぐる国際政治①：1880年代の朝鮮半島情勢はどのようなものだったのか？
14	朝鮮半島をめぐる国際政治②：朝鮮半島情勢に対する諸列強の態度はどのようなものだったのか？
15	まとめ：19世紀のアジア史をどのように理解すればよいか？
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教員免許を取得するための必修科目である。
- ② 半期の中に数回、復習をかねたワークシートを実施する。
- ③ 本講義を履修するための前提条件はない。
- ④ 出席は毎回必ずとる。 ⑤ 原則として追試験・再試験は実施しない。

【評価方法】

学期末試験（60%）、ワークシート（25%）および平常点（15%）による総合評価とする。
なお、それぞれの評価基準については、最初の講義の時に説明する。

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

【参考文献】

配付するレジュメに記載する。

外国史Ⅱ

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

高等学校の地理歴史科教員は、多面的な歴史理解能力とともに、歴史事象、とくに近現代史に対するより深い専門的知識が求められる。また、歴史教育をめぐる昨今の社会状況を鑑みた場合、教員自身が「なぜ世界史を学ぶ必要があるのか」について語ることを求められている。そこで、本講義ではフランス革命以降のヨーロッパ史を取り扱い、「ヨーロッパ」地域が総体として有する歴史的特性の多面的理解、19世紀ヨーロッパ史に関する専門的知識の習得をめざすとともに、現在との関係で歴史を考察する能力の育成を目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？
2	フランス革命①：フランス革命の背景とは何か？
3	フランス革命②：フランス革命の展開には、どのような特徴があるのか？
4	フランス革命③：「ナポレオン体制」の特徴とは何か？
5	ウィーン体制の成立①：ナポレオン戦争の講和は、どのような条件でなされたのか？
6	ウィーン体制の成立②：ウィーン体制は、どのような理念と体制で構築されたのか？
7	ウィーン体制の成立③：ウィーン体制の意義と問題点とは何か？
8	イギリスの自由主義①：19世紀初頭のイギリスは、どんな国家だったのか？
9	イギリスの自由主義②：1820～1830年代のイギリスでは、どのような変化が生じたのか？
10	イギリスの自由主義③：イギリスの自由主義的改革の成果は何か？
11	1848年革命①：フランスの復古王政期は、どんな時代だったのか？
12	1848年革命②：七月革命と七月王政には、どんな特徴があったのか？
13	1848年革命③：二月革命はフランスの内政にどのような影響を与えたか？
14	1848年革命④：ヨーロッパにとって、「1848年」はどんな意義があったのか？
15	まとめ：なぜ「世界史」を学ぶ必要があるのか？
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、高等学校地理歴史科の教員免許を取得するための必修科目である。しかし、中学校社会科教員を目指す者も、歴史の多面的な理解のために、受講を推奨する。
- ② 半期の間に数回、復習をかねたワークシートを実施する。
- ③ 本講義を履修するための前提条件はない。（外国史Ⅰを未履修でも受講できる）
- ④ 出席は毎回必ずとる。 ⑤ 原則として追試験・再試験は実施しない。

【評価方法】

学期末試験（60%）、ワークシート（25%）と平常点（15%）による総合評価とする。
なお、それぞれの評価基準については、最初の講義の時に説明する。

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

【参考文献】

- ①村岡健次・木畑洋一（編）『世界歴史大系イギリス史3 近現代』（山川出版社、1991年）、②村岡健次・川北稔『イギリス近代史 [改訂版]』（ミネルヴァ書房、2003年）、③服部春彦・谷川稔（編著）『フランス近代史』（ミネルヴァ書房、1993年）、④谷川稔他（編著）『近代ヨーロッパの苦悩』（中央公論新社、1999年）他

憲法 I

担当教員 井端 正幸

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

近代以降の憲法は、基本的人権の保障と統治の機構を主な構成要素としている。その理念や基本原理をふまえた上で、現実の諸問題を考えなければならない。

この講義では、基本的人権の概念とその保障のあり方、日本社会における憲法問題、憲法をめぐる最近の諸問題、などを取り上げる予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	プライバシー権と個人情報の保護
2	法とは何か — 国家と法	18	ビデオ「プライバシー」視聴
3	憲法とは何か — 人権保障と立憲主義	19	営業は自由にできるか
4	基本的人権の歴史 — 近代と現代	20	財産権の保障と損失補償
5	二つの憲法と人権保障 — 臣民と国民	21	人間らしく生きる権利
6	平和に生きる権利 — 平和主義と安全保障	22	教育を受ける権利と教育の自由
7	「非武装」と集団的安全保障	23	働くことは権利か
8	ビデオ「最高裁判所」視聴	24	刑事裁判と人身の自由
9	外国人に人権は保障されるか	25	被疑者・被告人の人権
10	「会社」に人権は保障されるか	26	現代日本の憲法問題（1）
11	「法の下での平等」の現在 — 平等原則	27	現代日本の憲法問題（2）
12	ビデオ「私は男女平等を憲法に書いた」視聴	28	現代日本の憲法問題（3）
13	人権の制約は許されるか	29	米軍ヘリコプター墜落事故と法的諸問題
14	信教の自由と政教分離原則	30	質問と回答
15	表現の自由の規制と違憲審査	31	試 験
16	知る権利と情報公開		

【履修上の注意事項】

必要に応じて講義の際に指示する。

【評価方法】

- (1) 評価の基本は年度末に行う論述試験とする。
- (2) 必要に応じて、小テストを行うかレポートの提出を求める。

【テキスト】

テキストは使用しない（講義の際にレジュメ・資料等を配布する予定）。ただし、日本国憲法の規定・条文が載っているものを持参することが望ましい。

【参考文献】

- (1) 井端正幸・渡名喜庸安・仲山忠克編『憲法と沖縄を問う』法律文化社
- (2) 永田秀樹・和田進編『歴史の中の日本国憲法』法律文化社、等。

システム設計実習

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

Androidアプリケーションの開発を通してオブジェクト指向による設計と実装について修得することを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・Androidアプリ開発の基本
2	Androidアプリ開発の基本
3	UIクラスと画面設計
4	ビューの設計と実装
5	コントロールの設計と実装
6	モデルの設計と実装
7	インテントの設計と実装
8	サービスコンポーネントの設計と実装
9	レシーバコンポーネントの設計と実装
10	コンテンツプロバイダの設計と実装
11	ジェスチャと音声認識・合成の適用
12	位置と地図情報の適用
13	Web通信の適用
14	課題作成
15	課題作成
16	発表会

【履修上の注意事項】

プログラミングI・IIを履修済みであること

【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。評価は受講態度、成果物により総合的におこなう。

【テキスト】

三苦健太「図解でわかる Androidアプリケーション開発教科書」技術評論社

【参考文献】

安藤ろいど「Androidアプリケーション開発のためのやさしいJava入門」技術評論社
竹政昭利 ほか「かんたんUML入門」技術評論社

自然地理学概論

担当教員 前門 晃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 日本文化・英米言語学科以外対象

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

自然地理学特講

担当教員 前門 晃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 法学部・経済学部・社会文化対象

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

心理学概論

担当教員 大嶺 和歌子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

情報通信ネットワーク実習

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 実験実習

単位数 1

【授業のねらい】

産業社会における情報通信ネットワークの技術基盤を理解し、実習を通してネットワークシステムの構築と運用と保守管理等について理解を深める。

【授業の展開計画】

実習の内容としては、TCP/IPによるインターネット並びにイントラネット接続、ネットワーク上への情報発信、アップロード等のためのサーバー接続と情報セキュリティ設定等を行う。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・演習環境の準備
2	Linux OSのインストール・ストレージ管理
3	ネットワークシステム概説
4	ネットワークインタフェースの確認と設定
5	Webサーバの動作確認・リモート接続
6	DNSサーバ概説
7	DNSサーバの構築
8	Webサーバ概説
9	Webシステムのアクセス制御
10	バーチャルホストの構築
11	メールサーバ概説
12	メールサーバの構築
13	メールの送受信
14	ネットワークセキュリティ
15	総まとめ
16	総合演習・期末試験

【履修上の注意事項】

CentOS (Linux) を使用します (Windowsではありません)。「情報通信ネットワーク論」を履修した者の受講が望ましい。

【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。

【テキスト】

「Linuxサーバー構築標準教科書」エルピーアイジャパン (LPI-Japan)

【参考文献】

「Linux標準教科書」エルピーアイジャパン (LPI-Japan)
アंक「TCP/IPの絵本」翔泳社 (2003)
アंक「UNIXの絵本」翔泳社 (2006)

人文地理学概論

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人文地理学は、人間によって地表面に刻印された様々な空間的事象を扱う学問である。本講義では、分布・位置・空間・場所などの地理学の基本概念を踏まえて、地図と人文地理学の関係を幅広く検討する。とくに地形図を中心とする正しい読図の方法を、新旧の地図を比べながら身につけることを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	人文地理学の歴史
3	人文地理学の方法
4	地図の基本①－地形図の性格－
5	地図の基本②－地形図の読解－
6	地図の基本③－旧版地形図の利用－
7	地図の読図①－農村地域－
8	地図と読図②－村落と都市－
9	地域と景観①－村落景観の分析－
10	地域と景観②－村落景観の変容－
11	地域と景観③－宜野湾市の巡検－
12	村落社会の構造①
13	村落社会の構造②
14	村落空間の歴史性①
15	村落空間の歴史性②－中城村の巡検－
16	試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に出席すること。出席状況と課題の提出を重視するので注意すること。また、巡検に参加する意志の強い受講生を歓迎する。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席状況により総合的に評価する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

人文地理学概論

担当教員 一宮内 久光

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

人文地理学特講

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人文地理学は、自然と人間の関わりを検証する総合的な学問である。本講義では、文化地域・文化生態・文化景観などの文化地理学の領域と、「過去の地理」を検証する歴史地理学の領域から、人文地理学の見方・考え方を幅広く検討する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	人文地理学の基本概念
2	文化地域①－等質的な地域と機能的な地域－
3	文化地域②－頭の中の地域－
4	文化生態①－自然と人間のかかわり－
5	文化生態②－環境の改変者としての人間－
6	文化景観①－文化景観の形成と変容－
7	文化景観②－心の中の風景－
8	文化景観③－民家・耕地・村落形態－
9	沖縄の都市空間①－場所の意味－
10	沖縄の都市空間②－場所の政治－
11	沖縄の都市空間③－領域とアイデンティティ－
12	沖縄の都市空間④－コザを歩く（巡検）－
13	沖縄の歴史空間①－近世首里の歴史空間－
14	沖縄の歴史空間②－近代那覇の歴史空間－
15	沖縄の歴史空間③－首里を歩く（巡検）－
16	試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に出席すること。出席状況と課題点を重視するので注意すること。また、この講義では、巡検も重視するので、履修にあたっては注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席点を総合して評価する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

人文地理学特講

担当教員 一宮内 久光

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

地誌 I

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地誌学は、直接的に個々の地域をその研究対象とし、その地域構造を明らかにして、その構成に関する諸法則、傾向を明らかにすることを目的とする。その研究方法として、地域的に相違あることによって地域区分を行い、二つ以上の地域についての比較が必要になってくる。地誌 I では、この立場からの研究・調査方法について説明したあと、世界各地を取り上げ、地誌的アプローチを試みる。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ヨーロッパ州①
2	ヨーロッパ州②
3	ヨーロッパ州③
4	アフリカ州①
5	アフリカ州②
6	北アメリカ州①
7	北アメリカ州②
8	北アメリカ州③
9	南アメリカ州①
10	南アメリカ州②
11	オセアニア州①
12	オセアニア州②
13	オセアニア州③
14	世界各地の人々の生活と環境①
15	世界各地の人々の生活と環境②
16	テスト

【履修上の注意事項】

当科目は、教職課程の科目であるため、それ以外の学生の受講は原則として認めない。

追試、再試は行わない。

【日文・英米以外対象】

※地誌 I は中学校社会科、高校地歴科免許状の必修科目

【評価方法】

成績評価は、数回のレポートの提出と出席および試験によって総合的に判断する

【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1800円、帝国書院『新詳資料地理の研究』1800円

【参考文献】

田辺裕監修(1997)『図説大百科世界地理』、朝倉書店

地誌Ⅱ

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地誌学は、直接的に個々の地域をその研究対象とし、その地域構造を明らかにして、その構成に関する諸法則、傾向を明らかにすることを目的とする。その研究方法として、地域的に相違あることによって地域区分を行い、二つ以上の地域についての比較が必要になってくる。地誌Ⅰでは、この立場からの研究・調査方法について説明したあと、日本各地およびアジア州を取り上げ、地誌的アプローチを試みる。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	アジア州①
2	アジア州②
3	九州地方①
4	九州地方②
5	中国・四国地方
6	近畿地方①
7	近畿地方②
8	中部地方①
9	中部地方②
10	関東地方①
11	関東地方②
12	東北地方①
13	東北地方②
14	北海道地方①
15	北海道地方②
16	テスト

【履修上の注意事項】

当科目は、教職課程の科目であるため、それ以外の学生の受講は原則として認めない。

追試、再試は行わない。

【法律学科・地域行政学科・地域環境政策学科・経済学科・社会文化学科対象】

※地誌Ⅱは高校地歴科免許状必修科目である。

【評価方法】

複数回のレポート提出および出席、試験によって総合的に判断する。なお、追試験、再試験は一切行わない。

【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1575円、帝国書院『新詳資料地理の研究』980円

講義の中で適宜紹介する。

【参考文献】

田辺裕監修(1997)『図説大百科世界地理』、朝倉書店立正大学地理学教室編(2007)『日本の地誌』古今書院3000円、大明堂編集部「新日本地誌ゼミナール」シリーズ、朝倉書店「日本の地誌」シリーズ

哲学概論

担当教員 武田 一博

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

この科目は、教職を目指す人のために、教科(中学社会科、高校公民)に関する専門的知識を授けることを目的としています(ただし、卒業単位に組み入れることができます)。とくに高校で倫理を教える人を念頭に、授業をすすめます。内容は欧米の思想史を中心とし、前期に古代ギリシア思想からルネサンスまでを、後期には近代思想から現代思想を中心に行ないます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	講義概要、哲学とは何か	17	前期レポートの講評
2	レポートについて	18	近代西洋思想の概要
3	東洋思想と西洋思想の違い	19	デカルト
4	西洋における思想の始まり	20	スピノザ
5	イオニア自然哲学	21	ライプニッツ
6	原子論	22	F. ベーコン
7	ソフィスト	23	ホッブズ
8	ソクラテス	24	J. ロック
9	プラトン	25	ヒューム
10	アリストテレス	26	ルソー
11	ヘレニズム期の哲学	27	カント
12	ユダヤ教とキリスト教	28	ヘーゲル
13	教父哲学	29	マルクス
14	スコラ哲学	30	フロイト
15	ルネサンス期の思想	31	実存主義 　　まとめ、後期レポート提出
16	まとめ、前期レポート提出		

【履修上の注意事項】

出席はとりませんが、私語と居眠りは、教室の外で行なってもらいます。
 少人数出席の際には、授業が一方通行にならないように、ディスカッションを積極的に取り入れます。
 受講生からの積極的な発言、質問を期待します。

【評価方法】

成績は、前期と後期のレポートを合計して評価します。レポートの採点基準は、教職科目にふさわしく、厳しく行ないます。レポート作成上の諸注意は、2回目の講義で行いますので、それに従ってください。レポート作成上の決まりを守らないレポートを提出しても、不可をつけます。

【テキスト】

とくに指定はしません。

【参考文献】

日本史

担当教員 吉浜 忍

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考 日本文化学科・英米言語学科以外の全学科対象

【授業のねらい】

原始・古代から現代まで通史的に講義を行うが、その時代の象徴的な事件や人物などをテーマ設定する。講義は資料や図版・漫画・クイズなどを取り入れたビジュアルな自作のプリントで行い、テーマ素材の教材化の仕方や教え方に重点を置く。同時に、歴史に興味・関心を持たせることやテーマの時代背景や歴史的意義を理解させることも目標とする。歴史の流れやその時代の基本的な歴史事項や用語を理解させると同時に教材化の視点や方法を学ばせる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	ガイダンス
2	原始・古代①	18	近代①
3	原始・古代②	19	近代②
4	原始・古代③	20	近代③
5	中世①	21	近代④
6	中世②	22	近代⑤
7	中世③	23	近代⑥
8	中世④	24	近代⑦
9	中世⑤	25	現代①
10	近世①	26	現代②
11	近世②	27	現代③
12	近世③	28	現代④
13	近世④	29	現代⑤
14	近世⑤	30	後期まとめ
15	近世⑥	31	テスト
16	前期まとめ		

【履修上の注意事項】

教職課程を受講する者のみが履修できる。

【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 10点
 ②レポート(歴史人物の教え方について、前期・後期それぞれ一回) 40点
 ③テスト(日本史の基礎・基本用語の記述式、前期・後期それぞれ一回) 50点
 ①+②+③=100点満点で評価する。

【テキスト】

- ①テキストとして、毎回5枚前後のプリントを配布する。
 ②「生きた教材」である実物資料を原則として毎回使用する。

【参考文献】

参考文献はテキストのなかに表記する。

プログラミング実習

担当教員 大井 肇

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、「プログラミング理論」を履修しその講義内容を十分に理解した学生を対象としながら、その応用としてのソフトウェア開発スキルの修得を目指す。言語としては、オブジェクト指向プログラミング言語Javaを採用している。講義の前半では、Javaの文法理解の上に、基本的なプログラムの読解並びに記述を繰り返しながらプログラミングスキルの基礎を確かなものとする。後半では、アルゴリズムの理解と共に、構造化設計、オブジェクト指向設計といった関連技能への展開を図る。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	プログラミング言語とJava
2	変数と式（識別子と型、優先順位と型変換）
3	分岐（if文、if-else文、switch文）
4	繰り返し（for文、while文、do-while文）
5	配列と多次元配列
6	構造化プログラミング
7	オブジェクト指向プログラミング①
8	オブジェクト指向プログラミング②
9	フィールドとメソッド
10	オブジェクトの作成と利用
11	クラスの基本と作成
12	クラス変数とクラスメソッド
13	パッケージ
14	クラスの派生と多相性
15	抽象クラス
16	総括（期末試験）

【履修上の注意事項】

- (1) 「プログラミング理論」を履修した者の受講が望ましい。
- (2) 各週の学習内容に応じて、毎回復習用の課題提出を義務付けるので、欠席した場合であっても必ず提出すること。
- (3) 出席日数が3分の2に満たない者には原則として単位を与えない。

【評価方法】

試験、レポート、出席日数により総合的に評価する。

【テキスト】

柴田望洋：『明解Java 入門編』ソフトバンククリエイティブ

【参考文献】

ケン・アーノルド他：『プログラミング言語Java』ピアソンエデュケーション
ナイジェル・ウォーレン他：『Javaの格言—より良いオブジェクト設計のためのパターンと定石』ピアソンエデュケーション

法学概論

担当教員 長嶺 弘善

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

わたしたちは、法の網の目に囲まれて生活している。法は、社会における人々の行為規範として機能しており、基本的人権の尊重や統治機構の規制にとどまらず、売買・消費貸借の契約遵守から、夫婦・親子関係の保護や人の生死にかかわる問題、そして違法行為に対する制裁など、多岐にわたる。講義は、現代の法にかかわる領域全般にわたって、できるだけ具体的事例に即しておこなう。受講生が、法の一般的な目的・機能を理解することを目標とし、そして身の回りに生起する具体的問題を法的に思考し、解決する助けとなることを期待する。

【授業の展開計画】

毎回の授業はそれぞれ異なる分野についておこなうが、法的思考において関連するので、休まずに出席することが、理解の助けとなる。

<前期>

1. 登録確認および導入：法現象
2. 六法の使い方：大学入学と単位
3. 社会規範：法と道德の異同
4. 法の存在形式：法源論と分類論
5. 法の適用：解釈と適用
6. 憲法原則：統治章典、権利章典
7. 日本国憲法制定：押付か革命か
8. 人権の本質：自然権
9. 自由権：表現を中心に
10. 包括的人権：幸福と平等
11. 生存権と教育権
12. 労働：労働契約、労働基準
13. 刑法：罪刑法定、違法と有責
14. 刑法：新しい刑法、裁判員
15. 国際関係と人権
16. 試験

<後期>

1. 前期試験講評
2. 民法家族法：親族
3. 婚姻の成立：婚姻意思と届け出
4. 婚姻の効果：身分と財産、日常家事
5. 離婚：成立と効果、財産分与
6. 離婚：子どもの親権・監護権
7. 相続：遺言自由と非嫡出子
8. 民法財産法：法律行為論
9. 契約自由の原則：有効要件
10. 消費者契約：特別法による保護
11. 不法行為：成立、過失責任
12. 不法行為：効果、損害賠償論
13. 立法府：国会、選挙、法定立
14. 行政府：議院内閣制、法執行
15. 司法府：裁判制度、法の番人
16. 試験

【履修上の注意事項】

テキストを一読し、六法を持参して出席し、講義に集中すること。質問大歓迎。講義の聞きっぱなしでなく、テキスト再読・ノート整理など、自学すること。

【評価方法】

評価基準および出欠席の扱いについては、『学則』・『学部履修規程』による。前期・後期の期末試験（穴埋め式および正誤式）で評価する。試験得点調整が必要な場合、出席を考慮する（1割程度）。

【テキスト】

講義にはテキストおよび六法（法令集）の2冊が必要である。開講時に紹介する。

【参考文献】

竜崎喜助『生の法律学【改訂版】』（尚学社）、稲垣明博『生活と法律—生命の誕生から終焉まで【改訂版】』（泉文社）、大村敦志『生活民法入門—暮らしを支える法』（東京大学出版会）、初宿正典『いちばんやさしい憲法入門【第3版】』（岩波書店)

マルチメディア実習

担当教員 中西 利文

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

本実習では、次の3点により、CG制作およびグラフィックデザインの基礎を身につける事を目的とする。

1. ドロー系とペイント系の2種類のグラフィックソフトの基本操作の習得
2. イメージを具現化するためのプロセスの実践
3. 課題制作によるCG作成スキルの向上

制作したコンテンツを受講者全員で評価することにより、その学習効果を議論・検討する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	ペイント系ソフトの基本操作について (1)
3	ペイント系ソフトの基本操作について (2)
4	ペイント系ソフトの基本操作について (3)
5	ペイント系ソフトによる画像加工実習 (1)
6	ペイント系ソフトによる画像加工実習 (2)
7	ドロー系ソフトの基本操作について (1)
8	ドロー系ソフトの基本操作について (2)
9	ドロー系ソフトの基本操作について (3)
10	ドロー系ソフトによる画像作成実習 (1)
11	ドロー系ソフトによる画像作成実習 (2)
12	課題制作 (1)
13	課題制作 (2)
14	課題制作 (3)
15	プレゼンテーション、総括
16	

【履修上の注意事項】

この実習は、教職課程「情報」の必修科目である。マルチメディア論を履修した者のみ登録を受け付ける。教職履修者は必ず、配当年次に受講すること。

【評価方法】

基本的に欠席は認めない。作成したマルチメディアコンテンツのプレゼンテーションと出席状況を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

配布資料を使用予定

【参考文献】

開講時に指定する。

倫理学概論

担当教員 小柳 正弘

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

倫理学とは人間はいかにあるべきかという問題を哲学的に考察するものである。哲学は本来対話を通して問題を多面的かつ根底的に検討する事をめざすものなので、この講義でも受講者それぞれが書いたり話したり、グループで調査・議論したりといった形で「ともに考える」ことを中核に据える。倫理学の諸問題を素材に、倫理学上の問題に自力でとりくめるような能力の涵養をめざす。発表、特定質問、コメント等は単位取得の必要条件。早退・遅刻は1/2の欠席と見なす。座席は指定する。★第1回のオリエンテーションに出席しなければ履修者名簿から削除。公欠で出席できない場合はあらかじめメール (mkoyanagi@oki.u.ac.jp) で相談すること。★

【授業の展開計画】

- A. 基本としては、毎回、テキストや与えられたテーマについて分担でレジュメを作成しておこなう個人発表を中心に、全体で質疑応答・議論し、全員がコメントをつける（個人発表、特定質問、コメントは科目担当教員とSAにメールで提出する）。コメントや特定質問のまとめは授業の素材として用いる。
- B. 全員が個人発表を行う。
個人発表のレジュメは、40字×30行、A4、2枚。箇条書きではなく、読み上げる原稿にしあげる。定められた締切までに、科目担当教員・SA・特定質問担当者にメールでレジュメを送付する。
発表担当者は、担当部分について、その他の文献も探索し、疑問点などをみずから十分調査・検討して、レジュメのすべてをきちんと説明できるような準備をする。
シラバスには原則として以下のⅠ～Ⅴの項目をたてる。すべての項目に引用・参照した文献の頁数を明記し、レジュメのチェックや発表のさいには当該の文献をすべて持参する。剽窃は不正行為と見なす。
Ⅰ. 問題の概要／重要概念の説明 Ⅱ. 問題の経緯／概念の歴史 Ⅲ. 問題の現状／概念の現代的意義
Ⅳ. 問題の展望／概念をめぐる課題 Ⅴ. 引用・参照文献一覧
- C. 発表に対する特定質問を全員に割り振る。
特定質問担当者は、テキストや与えられたテーマと発表者から送付されたレジュメを照合・検討して、内容が明らかでないところや理解が間違っていると思われる点を2点以上指摘するとともに、テキスト、テーマ、レジュメに対する自身のコメントを述べる。質問終了後、発表者との質疑応答のやりとりも含めて、特定質問のまとめを40字×30行、A4、1枚で作成し、科目担当教員とSAに1週間以内にメールで送付する。
- D. 発表・特定質問へのコメントを発表者・特定質問担当者以外の全員が提出する。
定められた項目への回答とコメントを科目担当教員とSAにメールで送付する。
- E. 必要に応じて小グループで議論・調査して結論をまとめ発表し、他のグループや科目担当教員と質疑応答・討論する方式も採用。
- F. テキストの割り振りやその他のテーマはポータルシステムの「授業連絡」で告知し、分担や日程は第2回の授業時をめぐりに確定する。教育実習等で公欠が想定される部分についてはオリエンテーションのさいに調整する。
- G. 個人発表の素材とすることが予定されているのは、テキストの倫理学基礎理論、生命倫理、ビジネス倫理の部分、規範理念としての「人間の尊厳」「自己決定」「隣人愛」、倫理学の古典の読解などである。

【履修上の注意事項】

*第1回のオリエンテーションに出席しなければ履修者名簿から削除する。 *所要の連絡は、大学のポータルシステムから、学生番号メール宛に行うので、必要に応じて携帯電話への転送設定等を行うこと。メールをみていないという弁明は認めない。レジュメやコメントを添付メールで提出することも求める。 *自分で考え、読んだり書いたりすることを通して、自分の言いたいことをきちんと話すことができ、他人の言いたいことをきちんと聞きとることができるような能力を練磨しようとする意欲や気概のある受講者を望む。

【評価方法】

*個人発表・特定質問をレジュメやまとめの提出も含めて定められたやり方で締切をまもって行うことは単位取得の必要条件。その上で、以下の配点内で評価する（配分を変更する際は、授業中にその旨、告知する）。

①個人発表30点 ②特定質問20点 ③コメント30点 ④その他（発言の記録、授業中に行う持ち込み不可のレポート、グループディスカッションなど）20点

*欠席の扱いは学則の通り。遅刻・早退はこの授業ではそれぞれ1/2の欠席と見なす。

【テキスト】

長友敬一『現代の倫理的問題』ナカニシヤ出版(2600円税別)

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

倫理学概論

担当教員 大城 信哉

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講座は教職を志す人を対象に、倫理学の概略を伝えることを目的としています。教育と倫理と言うとよく「道徳教育の必要」が思い浮かべられますが、教職に就く人が倫理学を学ぶ必要があるのはそうした理由によるものではありません。道徳教育の必要が説かれるときには、何が道徳的であるかすでに判っている前提でそれを児童生徒に教え込むことが目指されています。しかし倫理学研究とは、道徳的であるとはどういうことか再検討することだからです。本講座では主として前半に倫理学の歴史を紹介し、後半で現代の問題に即して具体的な事例を検討します。予備知識は取りたてて必要ありませんが、熱心に学ぶ意欲のある人が来ることを期待しています。

【授業の展開計画】

予定は以下のとおりですが、第1回の合意作りのときに、受講者諸君がどのような問題を取り上げてほしいと思っているか教えてもらえたら、ある程度まではそれに応じます。希望があれば言ってください。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	開講にあたって受講者諸君との合意作り。	17	積極的自由と消極的自由について考えます。
2	倫理という語の意味について考えます。	18	自由と責任の関係について考えてみます。
3	倫理の漢字の意味についても考えてみます。	19	パターンリズムについて考えてみます。
4	ソクラテスとプラトンの考えを紹介します。	20	教育の倫理学を考えてみます。
5	アリストテレスの倫理学を紹介します。	21	人間であることの意味を考えてみます。
6	18世紀のカントの考えを紹介します。	22	世代間の違いの意味について考えてみます。
7	カントの考えをさらに詳しく考えてみます。	23	教育と政治の関係について考えます。
8	功利主義の思想について考えます。	24	地域と国家との関係について考えてみます。
9	功利主義的な自由主義について考えます。	25	国際関係について考えてみます。
10	カント説と功利主義の対立点を考えます。	26	自由と権力との関係について考えてみます。
11	うへの対立点について具体的に検討します。	27	生産と消費について考えてみます。
12	政治と自由、経済と自由について考えます。	28	経済活動と環境について考えてみます。
13	徳について考えます。	29	ふたたび教育について考えてみます。
14	共同体の意義について考えます。	30	教育は誰のためのものが考えてみます。
15	あらためて正義について考えます。	31	どのような理解が得られたでしょうか。
16	現代社会における倫理学の問題を考えます。		

【履修上の注意事項】

受講者の人数にもよりますが、こちらからも皆さんに質問します。活発な議論となることを望みます。評価方法については厳正であるように努めますが、講義の時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにもぜひ講義には積極的に参加してください。

【評価方法】

最終回のあとにレポートを提出してもらうつもりですが、長丁場なので適宜小テストもおこなおうと考えています。評価の方法についても第1回で他の希望が出たら考慮しますので、考えがあれば聞かせてください。出席も取りますが、受講者が出席することは最低限の条件ですので、それ自体を取りたてて高く評価するものではありません。

【テキスト】

使用しません。資料は講義中に適宜配布します。

【参考文献】

必要に応じて教室で指示します。